

株式会社 イート

主婦目線のやさしいお菓子で全国展開

宮崎県産のサツマイモとキャラメルを使った「キャラいも」。製造が追いつかないほど人気のオリジナル菓子を、もっとたくさんの人に味わってもらいたいと厨房機器を導入しました。



手作りのおいしさで笑顔をお届けしたい

平 成26年、社長を勤める木原奈津子さんを始め主婦三人で立ち上げた食品会社イート。『おいしい、やさしい、新しい』をコンセプトに、宮崎県のフードオーブンラボを活用した第一号商品となる「キャラいも」を開発しました。その「キャラいも」、ANAキャビンアテンダントがお薦めする商品の1位に選ばれるほどの人気を集めています。

そ んな「キャラいも」ですが、人気だからこそ苦悩がありました。「キャラいもは主婦目線で安心・安全、手作業にこだわって作っているので生産量が限られています。人気が出るに当たって、製造が追いつかない状況でした。」

せっかくのチャンスなのだという思いと、手作業のやさしいおいしさを守り続けたいという思い。この二つの思いを両立させるためには、品質を守りながら生産性を高めら

れる本格的な厨房機器の導入が必須でした」

生 産力を強化するためにイートが取り組んだのが工場の確保と煮炊攪拌機という設備の導入。より確かな場所がたくさん量を生産できるようにになりました。「これまでは、調味工程も仕上げ工程もすべて手作業で行っていました。特に、キャラメルをまぶしたサツマイモ同士がくっつかないようにする仕

ものづくり補助金活用 ここがポイント



煮炊攪拌機導入で生産力アップと作業負担軽減

フライパンとヘラで少量ずつ行っていた調味工程と、高温のキャラメルをまぶしたサツマイモがくっつかないようにする仕上げ工程が半自動でできるようになり生産力が向上しました。



生産量が高まったことで地域限定のおみやげ商品を手がけることに。九州限定の「塩キャラいも」と山梨県限定の「キャラいも 信玄のおやつ」。

上げ工程では、高温のキャラメルが冷めるまでの時間、手作業でほぐし続ける必要があったんです。この機械を入れたおかげで、そういった大変な作業がなくなり、1日600個程度だった生産力は、1日3000個にまで高まりました。スタッフ1人にかかる負担も小さくなり、労働環境の改善にもつながったんですよ。キャラいもをさらに全国のみなさんに食べていただくことで、宮崎県産サツマイモの消費拡大、そして雇用の増加につながれば」と話す木原社長。主婦目線の小さな食品会社の挑戦は始まったばかりです。




Q1 キャラいも開発の経緯を教えてください

A 宮崎の特産品であるサツマイモを、コンセプトでもある「見たことがないおいしい商品」ということで、キャラメルと組み合わせました。カリッとした食感と後を引くおいしさの自信作です。

Q2 お母さんたちにやさしい職場と聞きました

A 私も子育て中なので、そこは意識しています。子どもの急な発病時には退社可能ですし、週休3日制や時短正社員制も採用しています。仕事も子育ても楽しめる。そんな職場であり続けたいですね。

〈代表取締役社長〉
木原 奈津子
きはら なつこ

[座右の銘]
身に起きたことはすべてプラスに変える

Q3 今後の展望は？

A 生産量が増え、大手企業とも取り引きができるようになり、スタッフのモチベーションも上がっています。新工場も予定していますし、さらに生産量を増やして全国展開していきたいですね。



Case 01 食品製造販売・食品開発
株式会社 イート

〒889-1604 宮崎県宮崎市清武町船引644-62 TEL 0985-84-4488



平

成7年に菌床シイタケ培養袋製造業として創業した延岡市の株式会社エフテックは、独自に開発した菌床シイタケ培養袋「STバッグ」を主要製造販売商品として成長してきました。

国内の菌床シイタケの生産量は成熟期に入り、ここ5年は横ばいの状況です。中国などの海外産シイタケの輸入も年々増えており、国内市場に危機感を感じていた白羽根社長は、新しい市場へ挑戦する決意をしました。

ところが着目した菌床マイタケ市場では、培養袋の原材料にポリプロピレンを使用しているため、現在同社が菌床シイタケ培養袋に使用しているハイデンポリエチレンの製造設備を見直す必要がありました。そこでものづくり補助金を活用してポリプロピレンの菌床袋の製造に対応するための設備改良を行いました。

「こ

れまでは、一次加工で通気用の穴を開

株式会社 エフテック

マイタケ菌床栽培袋の製造設備改良で新市場にチャレンジ

既存の生産ラインを集約することで生産性が向上。さらに、空いたスペースを有効活用して、付加価値の高い新商品を開発しました。



ものづくり補助金活用 ここがポイント



新しい設備が整って生産効率が上がり品質も向上

菌床袋を製造するための専用加工機は販売されていないことから、類似商品の製造目的で作られた加工機を改良するなどして自社開発して製造しています。

「どうせ設備を改良するのであれば、この二つの加工ラインを一つに集約することができないか。そうすれば、生産性が大幅に向上する。さらに、空きスペースを活用して新商品開発も行える。そんな大きな期待を持って、ラインの集約に取り組みました」

新素材ポリプロピレンを使用した培養袋は、仕上がりが良く品質の高い製品になりました。



Q1 他社との差別化は？

A 開発能力にあります。製造ラインには生産性を高めるための独自の工夫が取り入れてあり、製造機も自社で設計・組立・改良を行っています。メンテナンスも自社で対応しており、いつでも開発や改良ができることが強みです。今後も若い技術者を養成しながら社業を発展させていきます。

Q2 STバッグには何種類くらいあるのですか？

A 現在、10種類を販売していますが、顧客の要望に応じて袋の厚みや大きさやフィルターの位置などカスタマイズして製造しているので約50~60種類の袋を製造しています。

Q3 今後の展望は？

A シイタケ・マイタケの国内市場における販売強化だけでなく、欧米や東アジアを中心とした海外市場にも挑戦していきます。

〈代表取締役〉
白羽根 健一郎
しらはね けんいちろう

【座右の銘】
考えていても始まらない。
とにかくやってみる。



「実

際、補助金を活用して製造設備改良を行い、製造ラインの見直しを行ったことで生産性が大きく向上しました。さらに、今まで二つの製造ラインが一つに集約され、工場内にできた空きスペースを活用して付加価値の高い既存の自社商品（手裂きシート付き袋）を製造できるようにになりました。新しい市場に参入することで社員のモチベーションも高まっています。これからも若い人材を育成しながらさらなる挑戦を続けていきます」と、白羽根社長は力強く話します。



Case 02 菌床栽培袋STバッグ製造販売 株式会社 エフテック

〒882-0085 宮崎県延岡市鹿狩瀬町1568番地9 TEL 0982-29-1243



〈代表取締役社長〉

黒木 周二
くろぎ しゅうじ

【座右の銘】

無心、無我夢中

Q1

独自の燃焼技術とは？

A 傾斜した炉床が回転することで燃焼を均一に行った燃焼速度を制御でき、ボイラ出力の安定化が図れます。

Q2

どんな市場での販売が期待できるのですか？

A 脱化石燃料化を模索している工業系工場や、全国のスーパー銭湯などをはじめとする温泉施設、高齢者施設などの市場を見込んでいます。

Q3

今後の展望は？

A 今後、見本市や展示会への出展も考えています。また、現在は温水ボイラですが、今後蒸気ボイラの開発を目指します。



既 存のバイオマスボイラは、燃焼と出力を安定化させるために、例えば同じ木質であっても、「ペレット」と「チップ」を燃料として併用することができません。したがって、ボイラの種類によって使用できる燃料が限定される上、異物などが混入していない比較的良好な燃料への偏重が発生しています。

今回開発した小型バイオマスボイラなら、木質チップとタイヤチップの混合燃焼も可能で、釘などが混ざった廃材も燃焼可能なことが実証されています。2年後には工場系ボイラ市場と温泉施設温水ボイラ市場へ進出し、当社のバイオマスボイラ導入先の燃料費削減、さらにはCO₂の排出削減による環境保全に貢献していきたいと考えています。



独自の技術で良い環境を次世代に残したい

昭 和44年に創業し、環境保全のために長年廃油のリサイクルを軸にあらゆる産業廃棄物のリサイクル事業に取り組んできた有限会社オイル・リサイクル。今回、補助金を活用して、特許を取得している独自の回転式燃焼技術を使った小型バイオマスボイラを開発し、準備が進んでいます。

「未

来に良い環境を残したいのももちろん

新たな次世代型の小型バイオマスボイラを開発しようと思いついたのは、東日本大震災がきっかけでした。「これからは、次世代に向けた再生可能なクリーンエネルギーへの取り組みが必要だと実感したんです」と黒木社長。

んですが、エネルギーとして再生利用可能な廃棄物等が無駄に焼却だけで終わっている現実があります。それらをエネルギーとしてより活用できる会社を作って行かなければなりません。焼却にお金を払うのではなく、安い燃料を使ってエネルギーを蓄えていくというのが、これから当社が目指す事業展開だと考えています。



そのために私どもの独自の技術を活かそうと考えたんです」



省スペースで設置できる小型バイオマスボイラで世界を変えていきます。



2012 - 2015
Made in
MIYAZAKI

有限会社 オイル・リサイクル

独自の技術で開発した小型バイオマスボイラで廃材をエネルギーに

ペレット、チップ、廃材。これまでできなかった混合燃焼を可能にする小型バイオマスボイラによって、よりクリーンなリサイクル環境を実現しました。

ものづくり補助金活用 ここがポイント



小型バイオマスボイラの実験プラントを製作 製品化に一步前進

燃焼実験で高出力の安定した燃焼が実証されました。これから製品化に向けて次の段階に取り組んでいます。

CASE 03 産業廃棄物処理業・特別管理産業廃棄物処理業 有限会社 オイル・リサイクル

〒889-0512 宮崎県延岡市新浜町2丁目8935番地70 TEL0982-37-1233



有限会社 王生工業

液状化判定から 地盤改良まで

最新の調査機を導入し、戸建て住宅向けの安価で高精度な液状化判定から安全な宅地を造る地盤改良工事までの革新的サービスを提供しています。

ワンストップサービスで 宅地に揺るぎのない安全を

家づくりの礎を守りたい

昭

和47年創業の王生工業は、建築土木業から生コンクリートの製造販売まで幅広いビジネスを展開しています。現在、特に力を入れているのが戸建て住宅の地盤調査及び改良工事です。

「平成19年に住宅瑕疵担保履行法の制定に伴って始めた地盤事業ですが、当時はお客様も地盤調査や地盤改良についてあまり意識していませんでした。

ところが東日本大震災において液状化現象による住宅被害がクローズアップされて、家屋の耐久性だけでなく地盤に対する安全性についても関心が高まりました」

「私

たちは住宅地盤業界には、建物を建設する前に液状化の危険性を判定する液状化判定を提供することが求められています。中規模以上の建築物については、ボーリング調査による液状化判定を行っているのですが、これを宅地地盤に適用す

るにはコスト的に無理があったんです。

そこで、一人でも地盤強度と液状化の危険性がある地層を調査できる最新のスウェーデン式サウンディング自動貫入試験機（SWS試験機）を導入。

さらに、正確な液状化判定が行えるよう、SWS試験機に取り付けて土壌を採取できる治具を合わせて導入し、宅地でも安価で高精度な液状化判定を提供できるサービスを確立しました」

ものづくり補助金活用 ここがポイント



液状化判定地盤測定器を導入し 住宅地盤の ワンストップサービスを提供

最新のスウェーデン式サウンディング自動貫入試験機によってボーリング調査に近い精度で調査できます。

液状化判定のできる地盤調査で安心安全の家づくりを応援します。



こうして、宅地の液状化判定ができるようになった同社。

「調査によって液状化対策が必要と判定された地盤には、かねてからの強みである地盤改良工法で対策工事を行います。新機械を導入することで、地盤調査から地盤改良業務まで、ワンストップサービスを提供できる体制を構築することができました。地盤は、人生において一番高価な買い物である家づくりの礎です。事前診断・調査・改良・地盤保証まで、当社ならではのサービスで、揺るぎない安心をお届けしていきますね」



〈代表取締役〉

中原 伸博
なかはら のぶひろ

[座右の銘]

出会い人は変え
経験は人を創る

Q1 他社との差別化は？

A 他社では行っていない液状化判定ができる地盤調査と、液状化対策としてハイスピード工法による地盤改良工事を一括して行えることが当社の強みです。

Q2 弱い地盤の改良ってどうするの？

A 軟弱地盤や液状化地盤に直径40~55cmのドリルで掘削し、天然の砕石を投入しながら締め固めることで地盤に砕石杭を埋め込むハイスピード工法で住宅地盤を改良します。

Q3 今後の展望は？

A 宮崎県・熊本県・鹿児島県で実績を積み、事業基盤を強固にして年間130億円市場の九州全域への事業展開を目指します。



Case 04 土木建築業・生コンクリート製造販売・地盤改良調査工事 有限会社 王生工業

〒880-012 宮崎県宮崎市大字新名爪4090-11 TEL 0985-39-0018

